

認知したいじめを速やかに解消した事例12（高等学校第1学年男子）

～いじめ問題対策委員会による全教職員での組織的な対応～

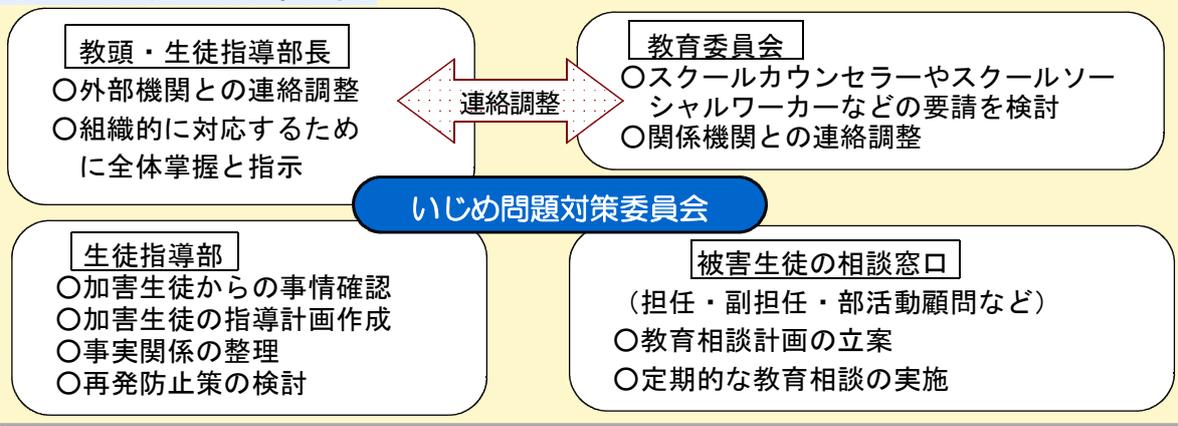
問題の把握

生徒による学校評価アンケートの中に、いじめを受けている疑いがある記述があり、記載内容等から第1学年の男子生徒であることが特定された。当該生徒に事情確認を行ったところ、同じ学年の男子生徒3人から、脅されたり、危険なことをさせられたりするなどのいじめを受けていることが発覚し、いじめ問題対策委員会による対応を進めた。

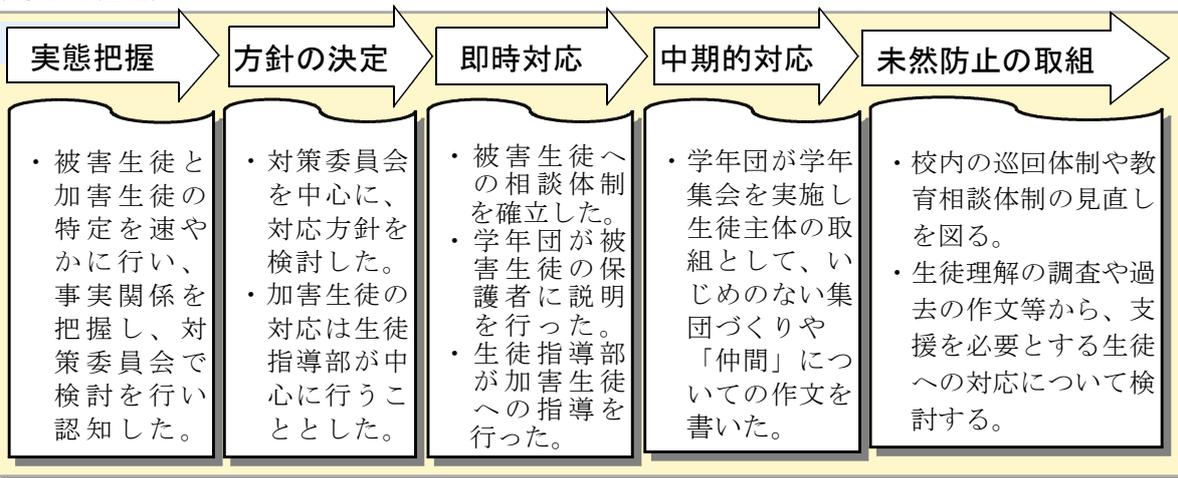
対応状況

〔対応図〕

〇いじめが起こった時の対応



〔対応の経過〕



いじめの問題を解消するためのポイント

- いじめ問題対策委員会を中心に、様々な立場から事実関係を把握・整理し、いじめの認知及び対応を進めること。
- いじめの再発防止に向けて教育相談体制の見直しを図るとともに、教職員のカウンセリング能力を高める校内研修を実施し、未然防止に向けた日常の取組を全教職員で進めること。